

## 令和4年度 出雲農林高校 卒業式

令和5年3月1日（水）第70回卒業証書授与式を挙りました。

卒業生154名が、卒業生会会長米山様、PTA 会長伊藤様にご臨席賜り、在校生、保護者教職員が見守る中、巣立ちました。



卒業の日にふさわしい、本当に気持ちの良い空に、春の太陽の光が柔らかく下横の地に降り注いでいます。1月下旬の寒波は、天気予報通り低温と積雪が見られましたが、その後は三寒四温を繰り返し、校内の木々の芽吹きや温室のサイネリアの開花も、私たちに春の訪れを知らせてくれています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度までは、卒業生、保護者のみの参列と、縮小した形での卒業式でした。今年度は、まだ完全ではありませんが、感染拡大の心配が緩和されたことを受け、3年ぶりに耕魂会会長 米山広志さま、PTA会長伊藤雅之さまのお二人を来賓としてお迎えしました。大変お忙しいなかご臨席いただきましたこと、高いところからではありますがお礼申し上げます。(ありがとうございます。)また、1年生・2年生の在校生の参列も叶いました。令和4年度 島根県立出雲農林高等学校 第70回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことを、この上ない喜びと感じております。

保護者の皆さまには、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。お子様の成長された姿をあらためてご覧になり、入学以来の様々な出来事に思いを巡らし、感慨いかばかりかと拝察いたします。保護者の皆さまのこれまでのご労苦に対しまして、敬意を表しますとともに本校教育へのご支援、ご協力に心からお礼申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与いたしました154名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学時に皆さんが思い描いていた高校生活は、新型コロナウイルスのために大きく変わってしまいました。県外研修や体育祭、農業祭をはじめとする様々な学校行事や大会などが中止や変更となり、せっかく立てた計画が白紙になったり、これまでに培った力を発揮する場がなくなったりと、悔しい思いをした人も多くいると思います。しかし、皆さんの思いやイメージを形にする力は私たちの想像をはるかに超え、特に今年度の活躍や進路実現に向けての取り組みは、本当に素晴らしかったと思います。インターハイや農業クラブ全国大会、全国和牛能力共進会、お米甲子園など全国の高校生が集う場で、堂々のパフォーマンスを披露し、その結果や評価が特に高く、数ヶ月過ぎた今でも話題となっています。また、あらゆる部活動で、毎日の地道な積み重ねからこれまでの目標を達成してきたことも大きな一歩として記されています。この他、教科や学科に関連する資格や免許の取得にも自分のペースで勉強を進め、そこに先生方の献身的なご指導が加わり、卒業後の勉強や就職に活かせる実用的な知識や技術を身に付けることができた人が多かったことも皆さんの努力の結晶です。

新型コロナウイルスが、私たちの生活に多くの影響を与えたことは事実ですが、皆さんは、この状況をそのまま受け入れるのではなく、「どうすれば良いのか?」と迷い悩み「こうすればできる!」、といったプラスの思考に変えていきました。その姿に私たちも勇気ももらい、一緒になって頑張ることができたように思います。本当にありがとう。これからの学校や職場でも、周囲のあらゆるものから学び取り、知識と技術、経験を積み上げて、新しいモノを創造していくことが求められます。学びそして創る力が大切になってきます。これからの社会が求めている力である「創造力」を目一杯発揮して、新しいモノを創造し、皆さんの夢や目標を達成して欲しいと思います。

自分の人生は自分自身で切り拓くことができます。可能性は、それぞれ皆さん自身が持っています。みなさんは、本校の校訓である「耕魂・育命」のもと他校にない農業を基盤とした様々な教育活動に取り組み、課題を解決する力やともに助け合う協働する力など、様々な力を身に付けてきました。他校の生徒に決して負けないプラスアルファの力です。自信と誇りを持ち、様々な困難に果敢に立ち向かってください。

二度とない人生だからこそ、自分自身を誇れるよう夢や目標を掲げ、一人ひとりが「困難な道に立ち向かう勇氣」と「自ら進んで学ぶ態度」をしっかり持ち、将来の幸せをつかむとともに「あなたが夢見た自分」になってください。そのことが、社会に貢献できる有為な人物として成長することに繋がります。

卒業生の一人ひとりが、持てる力を発揮して、末永く幸せな人生を送ることを心から祈念して式辞といたします。

令和5年3月1日 島根県立出雲農林高等学校 校長 山根 登